



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2025
No.638
10月号

— 大自然 —

花鳥風月 吾は友とし憂き多き

世にも楽しく生きむとぞ思ふ

春の花 秋の紅葉を愛するこそ

神の恵みに応ふるなりける

風月を 友とし吾はかなめて

楽しみつつも神業進まゆ

御光筆『月雪花』



落款 自観書
落款印 岡懋之印

東山莊主
昭和二十四年

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

神言靈

◎方針のみちしるべ
(一) みつめなおそう明主様の心
(二) つらぬきとおそう明主様の心
(三) 教団綱領を尊び実践する
(四) 信仰継承は家族と家庭円満から

私は遊びながら仕事をしているようなものです。苦しみな
がらしている気はしないのです。道楽みたいなものです。観
音様の中に「遊行観音」というのがありますが、ちようどそ
ういうようなものです。それで、そういうようにやっている
とうまく行くのです。それでいろいろ苦しんだり、気がいか
ないことをやっているとうまくゆかないのです。この点がい
ままでの世の中の人と反対です。これは信者の人でも同じわ
けです。だからいやいややったりしたときには口なことは
ないです。

菩薩にする：「証覚者」が「菩薩」であり、「大覚者」が「如来」
である」ということを言っているのは、やはり覚りというこ
とは智慧です。ですからいろいろとなにか気がつき発見の早
い人があるが、それは覚者なのだから、覚者というものは心
の曇りが少ないわけです。そこでその曇りを少なく、心の鏡
がきれいに澄んでいるというためには、神言靈をたくさん読
むということが一番よいわけです。ですから神言靈を読んで
も、前にはよく分からなかったのが、その次に読んだら、あ
るいはしばらくたってから読むと、「これだ」「こんな良いこ
とがある」「こんなはつきりしているの」どうして自分は分か
らなかったか」ということがあるが、前に読んだときには曇っ
ていたからです。だからだんだん曇りが除れてゆくにつれて、
だんだん分かりが良くなるということは、そういうわけです。

それからまた時節というものがたいへんなもので、たとえ
うまくゆくことでも、良い計画でも、時節が早いとやっぱり
思うようにゆかないのです。それはやるのが悪いのでなく
て、時節が来ないのです。そこを見通すだけの智慧証覚がな
くてはならないのです。それからまた順序ですが、これがま
た実たいへんなものです。うまくゆかなければならない、
こうならなければならないのがどこかつかえている、うまく
ゆかないのですが、そういうときによく考えてみると順序が
違っている場合があります。それで順序を良くするとスラス
ラとゆくのです。ですからそういうようなことを早く発見す
るとということが智慧証覚です。この智慧証覚というものがま
たたいへんな意味：というよりか、物事に影響するのです。
それで智慧証覚があると気がつくのです。

〔御教え集〕二十九号 昭和二十九年一月十五日 抜粋

お釈迦さんが言っていますが、「智慧」ということをよく言い
ます。これはそのことです。それでその智慧がある程度まで
働いたのが覚者と言うのです。それで大覚者という一番偉
いのです。それで、お釈迦さんが言ったのに「証覚を得れば



明主様と高見順氏(写真右から三人目)。箱根美術館にて
昭和28年(1953)4月21日

明主様

「まあ、岡田さん(明主様)
のお人柄をひとことと言え
ば、山海の珍味といったご
馳走ではないが、栄養があつ
て、いつまでも飽きない日常
的な物業の味：そういう味
をもった人だと思います。」

(作家 高見 順)

教団綱領の学び



明主様の教えを心に誓い
光をまくばり 救いの業を
普く世にひろめます (全五回)

【第三回】明主様の教えを心に誓い

前号に続き、御在世中の「御逸話」より明主様の御心を学ばせて頂きましょう。

⑥ 拝読せぬのは御神業の妨げと同じ

『神言霊』を読んでいるか。』とは、私たちにことあるたびに、『神言霊』として頂いた御言葉であります。

この御言葉を頂く時は、必ず自分の魂が曇っている時であり、心に何か隙のある時でありました。大きく言えば、御神業の妨げをしている時でありました。(奉仕者)

⑦ 信仰向上は『神言霊』の拝読から

明主様は、『御論文』が出ると、何かでおためしになりました。『嘘吐き迷信』という御論文が出た時も、明主様は私に、『あれを読んだか、ちゃんと書いてある。現代人は嘘ばかりついて、しかも、問いつめられないと、自分の嘘がわからない。』というように、教えて下さいました。ためしていらつしゃるとともに、『神言霊』の拝読をすすめていらつしゃるのです。

私どもが何か失敗すると、必ず『神言霊』を読んでいるか。』と仰るのです。

そして、私どもがちよっと粗相しましたが、すぐ『神言霊』を読みなさい。』と言われました。やはり、読み方が足りない、どうしても気持ちが悪くならないので、自然にへマをやってしまうのです。それで、『おまえは『神言霊』

を読んでいるか。一日に何時間ぐらい読んでいるか。』と、そのたびに仰いました。(側近奉仕者)

⑧ どんなに忙しくても一日三十分は読め

お側に御奉仕してござりまして、何か失敗しますと、すぐ、『神言霊』を読んでいるか。』と御下問になるのが常でしたが、特にご晩年の昭和二十九年頃は、一層厳しくなられ、ホンの些細な失敗でも、『おまえは『神言霊』を読んでいるか。』とお叱りになりました。

そして、『浄化がきつくなつて来たから、どんなに忙しくても、一日三十分は読め。』と何かにつけて仰せられました。

⑨ 『神言霊』も一般書籍も読め

注意しなくてはならないことは、『神言霊』に対する感銘の深いあまり、その反動作用で、過去の文物に対して、それを夜の世界のものとして、ことさらに軽視する傾向があることです。

そこへ、『神言霊』を繰り返して読むべし。』と御言葉がありますと、その御言葉にとらわれて、今度は、『神言霊』さえ読んでいけば、それでよいと思ひ込んで、他のものに触れることを嫌うのです。ひどいになると、自分の怠情を隠蔽する好材料とする人すらあります。

明主様が博覧強記であられたことは、誰も驚嘆したところですが、われわれによく、広く知識を求めようお奨めになりました。知識欲を、人間の持った天来の美德とごらんになれば、特に愛されたようです。御自身は晩年の特にお忙しかつた時でも、ラジオはもちろん、新聞は十数種、美術、建築、その他各般の書物を取り寄せられて御覧になる、その御熱意は大変なものでありました。

いつかこんなことがありました。奉仕者で常識の欠けた人がありました時、『おまえは『神言霊』を読んでいるか。』との御言葉に、「はい、毎日繰り返し拝読しております」重ねて、

『他の本は読むか。』「いえ、あまり読みません」とお答えしますと、『そうだろう。それではだめだ。おまえは雑誌を第一、『神言霊』を第二に読みなさい。』と仰せられたことがあります。

※博覧強記はひろく古今・東西の書物を見て、物事をよく覚えておくこと。「博覧強記の人」(役員)

⑩ 何事も偏つてはいけない

『何でも読め。』という明主様の御言葉通りだと思つて、小説をあまり読みすぎて、『神言霊』の拝読が疎かになつてしまつたことがあります。その時、『今後は絶対に小説を読んではいけない。焼いてしまえ。』と、私は明主様からきついお叱りを頂きました。偏つてはいけない。』というのを教えて下さつたのです。私たちはすぐ偏つてしまうので……。(側近奉仕者)

⑪ 新聞や小説も読みなさい

ある時、明主様は、箱根でこういうことを仰いました。『近代人は、大いに新聞や小説を読まなくてはならない。』——もちろん『神言霊』はちゃんと読まなければいけないけれど』と。(側近奉仕者)

〈お伺い〉

⑫ 人を助けるには、どうしたらよろしいのでしょうか

【神言霊】

『人を助けるには、やっぱり話や説明や何かがあまくできなければならぬから、そのために『神言霊』を読む。また『神言霊』によって、いろんな真理を知りますから魂も浄まります。それとともに人を救う力もそれだけ出ます。そうして人を救い、喜ばせながら、自分も向上するということになるのです。』(側近奉仕者)

感謝奉告

戦後八十年、今ある日常に感謝し、犠牲になられた英霊の御救いに私たちができる事を実践。

前田 和子

〈浜松教会〉



前田和子さん 明主様の御光筆とともに

以前、学ばせて頂いた善言讃詞のお力のご奉告させていただけます。第二次世界大戦によって異国の地に命を落とされた方が大勢いらっしゃいます。私の父の従弟もその一人で身重の奥様を残して出征していきま

とあつたといひます。先日、弟にこの話をしたとき、「俺その手紙を見たよ」と言つて話してくれました。涙のシミが点々とし、インクの滲んだシミだらけの物だったそうです。今、私供にはこの悲しみ、苦しみはありませんが、現在の平和は英霊の方々の命をかけた犠牲の上にあるという事を忘れてはいけないと思つております。遅まきながら、自宅の朝夕拝の折に、異国の山野に朽ち果ててゆく英霊の御魂様方に想念の浄霊と善言讃詞をお上げさせて頂く事にしました。

来る御用をと思ひ、朝夕拝の折に祈らせて頂いております。戦後八十年、今年で遺骨の収集は終了するとの話ですが、英霊の方々が一人残らず、上にお上がり頂けるよう、ご協力いただければありがたいと思ひます。自分の幸せだけでなく、大きなお役の一端をお手伝いできる幸せは感謝しかありません。大光明・明主様、日々の御守護ありがとうございます。光守様ありがとうございます。

幸い、手指や口のしびれ、顔のひきつきり、頭の機能にも大きな異常はありませんが、歩行が少し不安定な事と、左手指にほんの少しのしびれがある程度です。転院を含め、二つの病院では治療のほかに、理学療法・作業療法・語学療法を受け、毎日三時間のリハビリを行いました。優しくて親切な先生方や看護師さんのおかげで、手足の動きや話す事、考えたりする事にほぼ支障がなく、本当に嬉しく、有り難く、大きな御守護を頂き、大光明・明主様に心よりお礼を申し上げます。

また、光守様はじめ、先生方皆様方には御守護御願ひ、日々のお祈り、想念浄霊をして頂き、誠に有り難う御座いました。心よりお礼を申し上げます。私自身も入院中、天津祝詞を奏上し、自己浄霊をさせて頂き、光守様の快気内祝いで頂いた天津祝詞・善言讃詞のCDも拝聴させて頂きました。退院したとはいえ、今までの様な丈夫な身体ではありません。今まで御用に、仕事に、生活にと、がむしゃらに突っ走って来ましたが、妻は高齢者、私は後期高齢者をむかえており、ますので、この浄化を機に、仕事や生活のあり方を改善させて頂く事に致しました。仕事は体調に合わせて、徐々に体を慣らしていき、営業再開の準備を進め、無事に開店の日を迎えさせて頂けますようにと、お祈りをさせて頂いております。また、妻は私が入院してから約二か月半の間、一人暮らしをしておりましたので、心身共に弱ってしまい不安定な状態ですが、この浄化を乗り越えさせて頂く事が出来ますように、合わせてお祈りをさせて頂いております。

神様の御用に、仕事にと、一筋に歩んできた中に頂いたご浄化。今までの在り方を見直すきっかけを与えて頂いた事に感謝。営業再開にむけて再出発。

辻井 健蔵

〈滋賀教会〉

私は、今年の六月五日に自分の店舗の工場で具合が悪くなり、六月八日の夕方に救急車にて病院に行き、小脳梗塞と診断され、入院、治療、リハビリを重ね、八月十三日に退院致しました。

大光明・明主様、この度の御守護、誠にありがとうございます。光守様におかれましては、ご自身が御浄化中にもかかわらず、本部にお出ましになられ、御守護御願ひのお取次ぎをして下さり、誠にありがとうございます。以上で、感謝奉告とお礼の言葉とさせて頂きます。有り難う御座いました。

一人息子を産み、親の男と名付け、育てました。成人した親男さんは父親が硫黄島で戦死の公報を目にしてから、各地の遺骨収集に励み、硫黄島での遺骨収集にも参加されました。火山島のこの島は地熱で三十分程しか作業は出来なかつたと話しておりま

私の父も、私が小学校一年生の夏、出征して満州に居るときに、敗戦でシベリアに抑留され、酷寒の中、原生林の中で作業中に寒さと空腹で倒れました。幸いにも一緒に作業していた方々が宿舎に連れ帰り、熱い砂糖湯を飲ませてくれたそうです。「あーうまい」と、目が覚めたと申しております。何か一寸ずれていたから、私も母親だけの家族になつていたかもしれせん。母も四人目の子を身ごもつた身で父を送り出しました。出産後、開封するようにと、但し書きをつけた手紙には、「女の子なら〇〇子、男の子なら〇〇男」

念ながら目にはできませんが、虹色に輝く球体が登つていらつしやうたという事を耳にしますと、何もせずにはいられません。自宅を出

分の店舗の工場で具合が悪くなり、六月八日の夕方に救急車にて病院に行き、小脳梗塞と診断され、入院、治療、リハビリを重ね、八月十三日に退院致しました。

また、光守様はじめ、先生方皆様方には御守護御願ひ、日々のお祈り、想念浄霊をして頂き、誠に有り難う御座いました。心よりお礼を申し上げます。私自身も入院中、天津祝詞を奏上し、自己浄霊をさせて頂き、光守様の快気内祝いで頂いた天津祝詞・善言讃詞のCDも拝聴させて頂きました。退院したとはいえ、今までの様な丈夫な身体ではありません。今まで御用に、仕事に、生活にと、がむしゃらに突っ走って来ましたが、妻は高齢者、私は後期高齢者をむかえており、ますので、この浄化を機に、仕事や生活のあり方を改善させて頂く事に致しました。仕事は体調に合わせて、徐々に体を慣らしていき、営業再開の準備を進め、無事に開店の日を迎えさせて頂けますようにと、お祈りをさせて頂いております。また、妻は私が入院してから約二か月半の間、一人暮らしをしておりましたので、心身共に弱ってしまい不安定な状態ですが、この浄化を乗り越えさせて頂く事が出来ますように、合わせてお祈りをさせて頂いております。



辻井健蔵さんと奥様の悦子さん

トピックス

教団創立五十三周年記念祭

令和七年八月一日、教団創立五十三周年記念祭併せて八月祈願祭が本部からのライブ配信にて、各布教拠点で祭場として祭典が執り行われました。祭典では清水信徒総代の創立記念祭によせるご挨拶に続き、会長の挨拶があり教団創立の意義を改めて見つめなおす思いが伝えられました。



創立記念祭によせて挨拶をする清水信徒総代



挨拶で教団創立の意義を伝える会長

八月慰霊祭・創祖十八年祭

令和七年八月十三日、旧盆の入りを迎えるこの日、八月慰霊祭、創祖（つくりおや）大沼昌司先生の十八年祭が本部からのライブ配信にて心を合わせて執り行われました。

本部礼拝堂には昌司先生の御写真が掲げられ、お盆をむかえ、全ての霊界の祖霊様の御供養とともに昌司先生をお偲び申し上げる一日となりました。会長の挨拶では先生の御遺訓、座右の銘が紹介され、改めて昌司先生の信念を感じ取るとともに、戦後八十年を迎える今年、世界では未だに争いが絶えない原因を明主様の神言霊から説かれ浄霊の業を实践させて頂く事の大切さが伝えられました。



本部礼拝堂に掲げられた創祖大沼昌司先生の御写真



お盆に際し全ての霊界の祖霊様の御供養が執り行われました。

十一月本部祭典のご案内

◎慰霊祭 令和七年十一月十日(月)十時

東京本部 (本部よりライブ配信)

◎火水土の恵み感謝祭 令和七年十一月二十三日(日・祝)

東京本部 (本部よりライブ配信)



昨年の火水土の恵み感謝祭展示会場の様子